

菊川市の公共施設のこれから

小林 博文（市民ネット）



市民の皆様にとって最大の関心事であり、重要な選択をする必要がある公共施設のあり方について、市民、行政、議会が互いに情報を共有し、また中長期的な観点においてどの様に進めていくかを問う。

Q 公共施設管理計画の下、全庁的な取り組み体制の構築を図る組織形態は。

A 計画の策定・管理実務は担当部署で行うが、関係部署で構成する菊川市公有財産有効利用検討委員会にて、横断的な管理を行う。

Q 学区の統合や再編等、小学校区に対する基本的な考え方は。

A 今後数年での児童生徒数の大きな変動、複式学級も見込まれない。小中一貫教育「学びの庭」構想では施設分離型で進めるが、学校間のアンバランスの進行も予想されるため、施設の耐用年数、学校の適正規模等踏まえ検討していく。



菊川市内の学校施設（菊川西中）

Q 静岡市が行う、点検や修繕等を盛り込んだカルテのような資産管理台帳の策定が有効と感じるが、本市での策定の考えは。

A 本市では、整備済みの固定資産台帳と各施設のライフサイクルコスト等のデータを相互に関連付けて台帳の整備を進める。

Q 計画の策定、改訂等にスケジュールを作り、情報提供すべきと考えるがどうか。

A 計画の見直し時や、節目毎に情報提供し、理解を深めていただく。

健全財政と下水道事業

織部 光男（無所属）

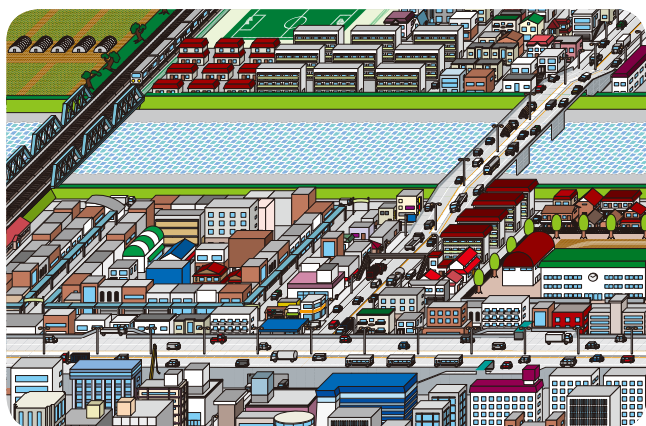


ジム・ロジャーズ氏は、「日本への警告」（講談社＋α新書）で「P・Bを均衡させることができず、ない日本は、公債を発行する悪循環から抜け出せない。人口が減り借金が増え、膨れ上がり衰退を続ける。安倍首相が借金を目をつぶっているのは、最終的に返さなくてはならない時には、この世にいないからなのだろう。」と言っている。

Q 私は、下水道事業は黒字経営はできないと断言している。10年計画を行政は進めている。赤字経営にならないと考えているのか。その根拠資料を求めます。

A 経営の基本方針や、投資・財政計画などを定めた菊川市下水道事業経営戦略を策定した。維持管理費の削減を行い、経費回収率の向上に努め、下水道事業を推進していく。

Q 実質公債費比率は10%、静岡県内の最下位である。30年度経常収支比率は悪くなっている。90.9%で完全な硬直化である。橋上駅北



側の開発については合併特例債が使われる。必要ないものを補助金が出るから使う、市民のために公園をやる、やらない、お金がないからできないと、そういうことではないか。

A 将来を見通してこれは菊川市のためになる、地域の活性化になる総合計画という最上位の計画、それが市のまちづくりの方針、基本的な姿勢である。